

部 会 会 議 録

| 周南市まちづくり総合計画審議会・第2部会 第3回 | |
|--------------------------|--|
| 日 時 | 平成16年8月19日(木) 10:00~12:05 |
| 場 所 | 周南市役所みゆき通庁舎2階 第5会議室 |
| 出席者 | 委員 13人 中谷部会長、金子委員、山本委員、藤井寿子委員、石松委員、藤本委員、和田委員、林委員、安永委員、藤井里美委員、武内委員、吉岡委員、渡辺委員 |
| | 事務局 15人 住田環境生活部長、熊谷健康福祉部長、有重同部次長、奥田消防長、末次同本部次長、吉松総務部次長、平木総務課長、宮川企画調整課長、企画調整課(藤井、増本、山本、坂本、寺岡、三川)、熊毛総合支所地域振興課(久行) |
| | 資料 |
| 資料 | 部会長作成資料、「23.地域福祉」修正案(委員提案)、周南市まちづくり総合計画審議会・部会構成(委員交代により)、第1回・第2回部会会議録 |

| 会 議 内 容 |
|---|
| <p>1. 事務局連絡 徳原委員の辞任により、藤井寿子委員に委員をお願いすることとなったことを説明。</p> <p>2. 審議 (1) 資料確認 総計審第2分科会5~8、8/19基本計画修正案、会議録(審議中に配布された。) (部会長)会議録は部会長が署名をするようになっているが、委員のみなさんに目を通してもらったうえで署名をしたいので、確認をお願いしたい。</p> <p>(2) 「23.地域福祉」修正案について 修正案を8/19総計審・第2部会資料により、提案委員が説明した。 ・行政がやるのか市民がやるのか分からないという点で、地域福祉というよりは行政がやるという意味で社会福祉政策として作成した。 ・施策の体系については行政としてやるべきものを前に書くべきだと考えて書いた。 ・福祉サービスの適切な利用促進については、是非、触れていただきたい。 (部会長)問題点として、次のものがあるかと思う。 ・社会福祉政策、地域福祉のどちらをとるかという点 ・行政と市民のあり方、連携をどう解決するか、協働に関するもの ・ユニバーサルなのか誰もが住み慣れた地域の中でと表現するのか、人にやさしいまちづくりを残すとした場合の体系の問題。 ・55ページのF「社会化」が動向としてあるのなら、どこかの文中に入れたほうがよい。 ・施策のA,C,Dこれを一体化してする方法が福祉サービスに限らず、様々な行政サービスで可能になってきつつある。市民の共通の質問はデータ化して適当な部署が答えるというやり方が流行りつつあるので書き込むかどうか。</p> |

・文体の統一。

(事務局) 現況と課題などで文面が長くて、他と比べて突出した所があるが。

(部会長) 全体を統一することが必要で、これを読み込んで反映させるのは事務局がやらなければならない。そのことは心配いらぬと思う。

(委員) ここまで小さなことまで書かなければならないのか疑問だ。この文書を抜粋してうまく盛り込んでもらいたい。

(部会長) 基本計画なので具体性はある程度ぼけて、理念を表に出して書くのが基本計画である。詳細の部分については言葉で残すようになるので、整理して書き直すことは必要かもしれない。その際に地域福祉に携わっている方の考え方は取り込んで、書き換えを行なうことを努力していただきたい。

(事務局) 委員さんに作っていただいた案で理解できないことはないが、多少の整理は必要かと思う。

(部会長) 基本計画を見ていると、半歩後退の表現が多々見られる、基本計画は長い目で見たものなので、全体的な体系の中で少しずつ盛り込んでいただきたい。

タイトルの部分は共通の事なので全体会で取り上げていただきたい。

(3) 「32.防犯」について

(部会長) 意見が特になければ2点ほど話をしたい。

社会資本が形成されるとその周辺で犯罪が起こるということがある。

犯罪を少なくするには、地域の連携が重要で、地域住民の参加が犯罪発生率を下げることが統計的にわかっている。

(4) 「33.交通安全」について

(委員) 4の施策のAに、標識という言葉を入れたい。

(事務局) 交通標識という言葉もあるので、標記が必要ということであれば入れても支障ない。最初に入れるか後に入れるかは検討する。

(部会長) GISで住民に事故の多いところを知らせるとかなり違う。知らせて事故を減らすことは重要である。

(委員) 施策のAで生活道路の安全確保を少し考えて欲しい。26ページの道路の施策と重複するかもしれないが。

(部会長) 生活道路の安全の確保についてはどうか。

(事務局) 道路の方に書き込みはしている。再掲ということならばそこにあがってくることになる。

(部会長) 生活道路の安全の確保を、道路と交通安全のどちらに入れるのが適切かということだ。これは道路に関するものだろう。交通の方は道路の運営に関するものである。住み分けが必要な気がする。検討して書き込みが必要ななら書き込んで欲しい。

(委員) ひとと車の共生の所で、国とか県への働きかけという文面があってもよいのではないか。

(事務局) 道路との住み分けになるが、現況と課題のところ、警察署をはじめとする関係機関として載せており、交通安全としては、その辺で理解いただきたい。

(5) 「 34. 防災 」 について

(委員) ハザードマップを市は整備しているのか。

(事務局) 合併前には作っているが、新市になってからは作っていない。

(委員) 生活空間はあまり広くないので、コミュニティ単位くらいでのマップとして欲しい。

(事務局) 自主防災組織の立ち上げを自治会等に相談している。ハザードマップも小さい単位のものも必要だろうと思っている。

(委員) 木造住宅の密集地で袋小路になっているような所は、区画整理を進めていくのか。

(事務局) 既存の袋小路についての区画整理の考えは、今のところない。

(委員) 高齢化の進む中、避難場所に行くまでの経路を考えて欲しい。

(事務局) 地域のつながりを作っていただくことで、その辺をカバーできないかと考えている。

(委員) 災害弱者にどう対応するかといった記述があってもいいのではないか。寝たきりのお年寄りとか、耳の不自由な方とか。

(事務局) この中にはそういう記述はないが、考えておく必要はあると思う。

(委員) 防災無線はどれだけ設置してあるのか。各戸に。

(事務局) 防災行政無線は熊毛と鹿野は整備していたが、徳山、新南陽にはない。各市町がばらばらであったので、周南市として統一しなければならない。地域防災無線といったものを含めて全市で整備するのが今からの課題と考えている。

(委員) 防災の放送があるが、どれだけ住民に聞こえているか疑わしい。それから先の知らせる方法を考えて欲しい。

(委員) お知らせは地域住民が聞かれるように、かなり大きな音でやるのが良いと思う。

(部会長) 行政的には実態を把握して、必要な時に必要な情報が流されているか確認する必要がある。

(委員) 危機管理上の広報活動の記述を入れたほうがいいのではないか。

災害と言っても企業の事故もあると思うが、市としてのマニュアルはどうなっているのか。

(事務局) 平成 15 年度に防災計画を作っている。マニュアルはできている。

(6) 「 35. 消防 」 について

(委員) 消防団の組織が大きくなったが、人員は妥当なのか。消防団の記述が薄いような気がするが、どう考えているのか。

(事務局) 地域が孤立した時は、消防団員が中心となって防災対応することになる。そうしたことからすると、消防団員の人員が多いとは考えていない。消防署から遠いところほど、消防団員を多く確保することになるが、若干弱いところもあるので、団員数と地域別の団員数を検討していきたい。消防車両についても同様である。

(7) 「 36. 救急・救助 」 について

(委員) 鹿野で起こった救急は鹿野に搬送されるのか。

(事務局) 救急が一番近いところに連れて行くのが基本である。ただし、症状やかかりつけなどによっては搬送先が変わることはある。基本的には市外への搬送は考えていない。

(委員) 熊毛地区の場合は光になるのか。

(事務局)熊毛地区は光市、大和町、熊毛町、田布施町で消防組合を作っており、常備消防については現在も光の担当地区となる。しかし、応援協定を結んでおり全く関係がないわけではない。

(委員)消防車両等の老朽化の予算はどうなるのか。熊毛地区は光地区の消防になるが。

(事務局)消防組合の分担金として予算化していくこととなる。

(委員)救急車のサイレンは、家の前まで鳴らさないといけないのか、家の前まで鳴らされると呼びにくいのだが。

(事務局)緊急車としては、赤色灯、サイレンを停車まで鳴らすのが原則。ただ、病院の近く等では柔軟に対応している。

(委員)消防の一元化が課題としてあげられているのであれば、施策として連携の強化などを記述すべきではないか。救急に関しても。

(部会長)検討していただき、消防と救急で、熊毛地区が錯綜しているので整理して欲しい。

(委員)周辺部に救急救命士や高規格救急車を配置して欲しい。距離的に遠いほうが必要性があるのではないか。

(事務局)16年度の予算で高規格救急車を購入して北部地区に配備したいと考えている。救急救命士も3名増える予定で19名になる。

(8)「37.市民相談」について

(部会長)相談件数が急上昇とあるが、内容はどのようなものか。

(事務局)14年度が1594件くらい、行政、民事、消費者相談、無料法律相談あわせて、15年度が3094件である。増えているのは消費者相談で、14年度が551件、15年度が1800件となっている。架空請求と多重債務が消費者相談の6割程度である。

16年の4月に消費者センターを設置して、相談員を2名配置しており、今後も相談体制の充実を図っていきたい。

(9) 全体的な質問について

(委員)63ページの保育所と幼稚園の連携強化については、県内でも既に事例があるので、研究ではなく、検討したらどうか。

(部会長)今日は担当に出席いただいてないので、事務局から伝えていただきたい。

(10) 総計審第2分科会資料について

部会長が資料を説明

- ・5ページで事務局に確認したいが、「総合計画審議会までの経緯」は間違いはないか。
- ・6ページの下に記載があるが、全体会で提起された、1時代の潮流と2市民意識、3周南市の課題の関連について検討する必要がある。
- ・7ページの将来の都市像のところを確認だが、環境立志都市、環境立市のどちらか。委員が環境立市周南と回答
- ・目標人口と行政と市民の協働の部分も書き込みが必要である。
- ・8ページの主要プロジェクトと21のリーディングプロジェクトとの関連、推進方策の4点が適切かどうかの意見の交換が必要と思う。
- ・最後の評価制度の導入については、私の意見だが、皆さんの意見を伺って全体会議に提

案するかどうかを決めたい。

(1 1) その他

(部会長) 基本構想のところでは全体会で提案されたものについては、意見を交換する必要があると思うがいかがか。

基本構想の時代の潮流と市民意識、周南市の課題については次回までに問題点等を考えていただきたい。

また、基本理念、将来の都市像、目標人口、主要プロジェクトについても意見をいただきたい。

(委員) 財政が厳しいと聞いているが、2市2町には様々な財産があるので、それを有効利用できるようなまちづくりが大切であると言いたい。

(部会長) 財産の有効利用については、第2章の一体感のあるまちづくりにつながっていくので、その辺りの重要性を認識する必要があるかと思う。課題としておきたい。

(1 2) 目標人口について

(部会長) 資料の7枚目の目標人口の考え方を確定しておく必要がある。17万人について意見を交換したい。

部会長が資料を説明

(委員) 資料にあるように都市格をどこに置いて整備するかにつけるが、経済の繁栄発展にこだわるのではなく、人に優しいまちづくりにこだわっていくならば、14万人で適当なのではないかと思う。

(委員) 夢とすれば17万人でいいが、運営、財政面では14万人で考えなければならないのではないかと。周南地域以外から入ってくるかということ、市外からの流入人口は見込めないのではないかと。

(委員) 漠然とした数字なので、年層別とか目標があった方がいいのではないかと。

(委員) 常住人口を増やすのは難しいかと思う。子供を増やすのも難しいかと思う。

(委員) なかなか結婚しないのが問題。17万人については、夢は持ったらいいが、現実には難しいように思う。

(委員) この計画は総合都市を目指しているようで、スポット的に何に重点を置くかということが不足しているように思う。私の住んでいる地域では過去10年間で23%、人口が減っており、それを考えると17万というのは難しいと思う。

(委員) 実現不可能な数字を目標にすべきではないと思うが、現状よりも少ない数字を目標とするのもどうかと思う。

(委員) 行政の“努力しろ”だと思う。企業誘致とかで若い人が働ける場を設けていく、努力しろとしてはいいのではないかと。17万の都市となれば市としても潤うとの試算のもとで出ていると思う。山口県の発信都市になりたいという希望をもっているのだからいいのではないかと。

(委員) 敬老会は増えているが、子供会がなりたないのが現状であるので、17万という数字は大きいと思う。

(委員) 17万になって欲しいと思う。流出を防ぐのが大切ではないか。県外に出て行った若者が帰ってくるような魅力あるまちづくりを考えないといけない。

(委員)昔は年寄りが、みんな子守をしていた。若い人が帰ってくるような地域づくりが重要と思う。

(委員)17万人は難しいのではないかと思うが、若い人が子供を作らないのは経済的なものではないかと思う。保育料等を無料にするなどの施策をして欲しい。

(部会長)いろんな意見があったので、私が整理して、次回、確認したいと思う。